

安全な医療を目指す リスクマネジメント部会の活動

医療安全対策部長兼脳神経外科部長 長嶋 達也

こども病院の医療における最優先の課題は「安全」です。医療が安全であることは当たり前と考えるのが自然ですが、現実には日々の医療行為は危険と隣り合わせと言えます。医療における危険には様々な種類があります。脳、心臓、気管の手術のように生命への直接の危険を伴う医療、病的なお産や体重が1000gに満たないような新生児を扱う周産期医療、小児救急医療や小児がんの治療などのように複数の専門領域に渡る複雑で高度な医療は、危険であることがその本質であるといえます。一方、出血しやすいこども達には転落・転倒によりベッドや床の上が危険な場所になりますし、食物アレルギーのあるこども達にはミルクや食物さえ危険物になり得ます。現代の医療における安全は、無くてはならない「塩」であり、また容易には得られない「砂漠における水」のようなものです。

さて、医療の安全を追求する仕組みの一つとして、こども病院には各部門におかれたリスクマネージャーから構成されるリスクマネジメント部会が存在します。医療事故に限らず、1件の重大事故の背景には同種の29件の軽い事故、そして同種の300件の軽微あるいは無害な事故が存在すると言われていています（ハインリッヒの法則）。これに基づいて、リスクマネージャーは軽微あるいは無害なもの（ヒヤリハット事例）も含めて事故を速

やかに報告し、その原因を分析することにより予防策を立てています。毎朝11時に数人の総括リスクマネージャーが院長室に集まり、その日の報告を分析して迅速に対応します（写真）。



毎月1回は全リスクマネージャーが集まるリスクマネジメント部会を開催し、部門ごとの報告を分析して対策を決定します。このようにして決めた安全対策が実践されているかどうかは、定期的な内部監査を行っています。年2回は全職員を対象とした医療安全セミナーを開催し、こども病院全体の医療安全対策の周知や外部講師による講義も行っています。

医療における「安全」と「医療の質」は一つのコインの表と裏です。医療の高い質を求める病院としての組織的な努力、安全に対する鋭い感覚を各人が磨き続ける努力を積み重ねて、安心してこども達の治療を任せただけのこども病院であり続けたいと思います。

「医療と教育の連携」



1月25日

◆兵庫県病虚弱教育研究会がこども病院で行われました。こども病院の中村肇院長が「医療と教育の連携について～医療の立場から～」という題名で、学校の先生方に講演をいたしました。発達障害児をテーマとした内容で、大変興味深かったとの声が多く聞かれました。

尿の検査と 必要な量について

検査・放射線部 川畑 順子

「おしっこはどれくらいあれば足りますか。」

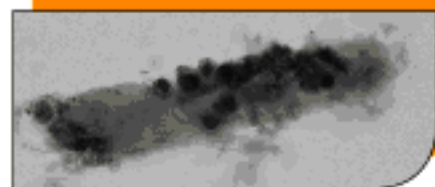
尿検査受付でよく聞かれる質問です。検査に必要な尿量は、10ml（スピッツ1本）が目安です。しかし検査の種類によってもっと少ない量でも出来ますので、今回は尿の検査の種類と、必要な量を紹介します。

<定性検査>

試薬をしみこませてあるろ紙に尿を浸して、試薬の色の変化を見て測定します。1つの試験紙に10種類ものろ紙が貼り付けてあり、尿中の蛋白や糖などの検査が一度に測定出来ます。この検査に必要な尿量は1～2ml程度です。

<尿沈渣>

尿中の有形成分（顕微鏡で見て形がわかるもの）を遠心分離器で集めて、どんなものがどれくらいあるかを検査します。尿の有形成分には赤血球や白血球、上皮細胞、細菌、円柱などいろいろありますが、円柱は聞きなれない言葉だと思います。



これは腎臓の状態によって出現するもので、腎障害などで認められる重要な成分です。この検査で

は原則として10mlの尿が必要で、少ない量で検査すると情報量が少なくなるので、できるだけ10ml以上採るようにお願いしています。でもおしっこが出にくい、うまくとれなかった、などの場合がありますので、そのつど対応させていただきます。

今回は尿検査窓口で行っている検査を紹介しました。これら以外にも、尿化学検査、微生物検査、病理検査など様々な検査があり、その種類によって必要な量も違ってきます。わからないことがあればお気軽に検査窓口でお聞きください。

ジェネリック医薬品の導入について

薬剤部長 郷地 啓子

Correspondence
From
Pharmacy
薬剤部通信

「あなたの薬もジェネリック医薬品に変えることでお薬代が安くなりますよ」とテレビから有名な俳優が呼び掛けています。

「ジェネリック医薬品」は「後発医薬品」や「ソロ」の俗称で以前から知られていましたが、ジェネリック医薬品に関する情報（薬の溶け方や体内での吸収状況等）が少なかったため、患者様は勿論、医療機関もジェネリック医薬品の使用には慎重でした。しかし、少子高齢化が深刻な問題となった今、厚生労働省は医療費抑制策のひとつとして「ジェネリック医薬品」の積極的な使用を呼び掛け、2002年6月に「国立病院・療養所に対する後発医薬品の採用要請」の通知を出しています。これに基づき独立行政法人を中心に使用が推進され、使用の有無により処方料にも差を付けたため、全国的にも徐々に拡大しつつあります。

当院でも、患者様の医療費の負担軽減や医薬品材料費の節減を図ることを目的に「ジェネリック医薬品」への切り替えを積極的に実施しています。

切り替えに当たっては、**1.**医薬品の安定供給ができること、**2.**迅速・的確な対応ができる体制が確立していること、**3.**医薬品情報の収集や提供が充実しfeedbackが十分であること、**4.**医薬品名や外観の類似がないこと、**5.**医薬品名が一般名であり取り間違いが生じない等の安全性が十分確保されていることとしています。

さらに、当院の患者様が小児やハイリスク妊産婦であるため、当該医薬品の各種文献や学会報告等の情報を収集し、他の小児医療施設等での使用状況など安全性を十分調査した上で、医師を主な構成メンバーとする薬事委員会で慎重に協議を重ねております。

今後も広い分野からの情報収集と十分な検討により、患者様に喜んで頂けるジェネリック医薬品の導入を積極的に推進していきたいと思っています。

混合病棟紹介

看護部



● 混合病棟は、眼科・整形外科・形成外科・脳神経外科など手術目的のお子様と、新生児内科・脳神経内科・腎臓内科など治療目的のお様が入院されています。



● 乳児期から幼児期の成長発達の著しい時期のお子様が多く入院されています。基本的な生活習慣の自立への援助や、母子関係を良好に保てるようご家族への支援を行っています。



● お子様のご両親と離れての入院生活は不安を多く感じられることと思いますが、お子様一人ひとりの個性を大切に、安心して入院生活を送れるようスタッフ一同勤めております。また、時には他病棟の保育士さんやボランティアの方々の協力を得てお子様が楽しめるように季節の行事、遊びの工夫などしています。

About
nursing care
看護部だより

当院の栄養指導課で実施している年間の行事食の一部を 写真で紹介させていただきます。

栄養指導課長

欧米流のファーストフードが急激に浸透している日本で、古くからある食生活や伝統的な行事の際の食事の良い点が見直されるようになってきました。日本の伝統的な食事は主食であるごはんを中心に魚、大豆、野菜などを組み合わせたものであり、欧米型の食事に比べて脂質の割合が低く、食物繊維を摂りやすいのです。また、行事食として献立に季節感を出すことによって、食への楽しみや喜びを味わっていただけるよう「心のふれあう」食事の提供を心がけています。

おせち料理



節分料理



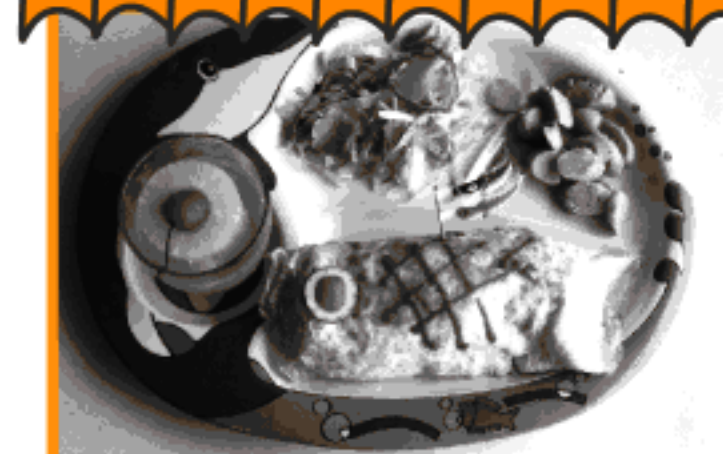
ひな祭り料理



お花見弁当



節句料理



Notice
Dietician
栄養指導課案内

保健師のお仕事

指導相談・地域医療連携部

保健師 行 祥子

34

こんにちは、保健師のゆきと申します。「指導相談部」で、患者さまとお母さま・お父さま方の、子育てや発達・療養生活に関するご相談をおうけしています。

発達のご相談では、例えば、ことばをなかなか話さないの・・・と心配されているお母さま方からご相談をいただき、お子さまとコミュニケーションをとりながら遊びの様子をみさせていただいた上でアドバイスをさせていただいています。

また、人工呼吸器などの医療機器や吸引などの医療処置が必要なお子さまがおうちでの生活をされるにあたって、どんなことが必要になるかをお母さま方と一緒に考え、患者さまとご家族が安定した生活を送れるようお手伝いをさせていただいています。患者さまとご家族お一人お一人の必要性によって、訪問看護ステーションをお探ししたり、様々な在宅サービスを利用されるにあたって事前に申請しておかなければならない福祉制度や公費負担制度のご紹介をしたり、おうちへ訪問させていただいたりしています。



また、施設のショートステイ利用前の受診に同行し医療的な説明をお手伝いしたり、地域の関係機関の方々との話し合いに伺って、患者さまご家族と一緒にお願いしたり調整したりするお仕事もしています。

保健職として、みなさまのご相談にのらせていただくとともに、関係機関の方々とのパイプ役でもありますので、「これからしなければならぬことがたくさんありすぎて、整理役が欲しいな」とか、「役所との間に立って調整して欲しいな」と思われた時なども、どうぞ保健師を訪ねていただければ、と思います。ぜひどうぞ、気軽にお声をかけてくださいね。😊

放射線検査と医療被曝

放射線技師長 田淵 仁春

放射線は1895年にドイツのレントゲン博士によって発見され、今では患者様の病気を診断して治療するためには、放射線（レントゲン）検査は欠かすことが出来ません。しかしレントゲンは発見後しばらくすると放射線を受けた皮膚などに障害が現れ、人体に有害なことが明らかになってきました。

有害ではあるが放射線をきっちり管理しどう利用するか、色々な形で研究されて人類は大きい恩恵を受けてきました。

病気と医療被曝と被ばく線量

病気を診断や治療するために放射線に被曝することを医療被曝と言います。この被曝をコントロールするためどの程度の被ばく線量になるか例示します。

(IAEAのガイダンスより)

これまで人体に放射線による障害を生じさせたのは、レントゲン発見初期の知識不足の時代を除けば戦争か事故の場合だけです。最近の放射線機器の発達や日本の放射線診断技術は世界的に高水準にあり医療被曝で障害が生ずることはありません。また検査を行なうに当たりどうすれば診断精度をおとさず医療被曝を減らせるかを放射線科医師と技師が研究しています。

被曝について不明なことや不安なことがありましたら、気軽に放射線科までご相談ください。



5歳児の胸部	0.4~0.5ミリグレイ	成人の肺シンチ	0.067グレイ/MBq
成人腰椎	10~30ミリグレイ	成人頭部CT	40~60ミリグレイ
成人腹部CT	20ミリグレイ	皮膚の紅斑	12.5グレイ (30日後)



病院敷地内禁煙を開始して1年

衛生委員会副委員長・看護部次長 池尻 操子

Infection Control Committee 衛生委員会

健康増進法第25条により受動喫煙の防止が制定され各地で禁煙推進に取り組まれているなか、平成16年9月13日の衛生委員会で「子ども・妊産婦さんを対象とするこども病院では率先して禁煙しましょう。」という提案が出され審議を重ねた結果、平成17年1月1日から敷地内禁煙を実施しました。

それに先立ち院内周知として中村院長から全職員に「敷地内禁煙化に向けて」のリーフレットを配付しました。また神戸大学大学院の西村善博先生による【禁煙のすすめ】と題して研修会を開催しました。さらに、案内板の設置や来院者・患者様のご家族へのパンフレットの配布・通知等を行いました。

また、「こどもの卒煙外来」を平成17年1月から毎週水曜日の午後に予約制で開設しました。

敷地内禁煙開始にあたり、吸い殻調査と喫煙者への指導を行うために禁煙パトロールボランティア隊員の募集を行いました。

◆吸い殻回収数と隊員数

実施回数	吸い殻回収本数	パトロール隊員数
1	350	9
2	250	11
3	142	9
4	173	7
5	129	7
6	182	4
7	281	10
8	206	9
9	281	6
10	340	7
11	432	7
12	343	8
13	205	5
14	158	3
15	143	2
16	629	7
17	259	4
18	293	5
19	363	7
20	350	6
21	483	8
22	365	9
23	406	11
24	434	6
25	629	7
26	626	8
27	193	4
合計	8675	186
平均	321	7

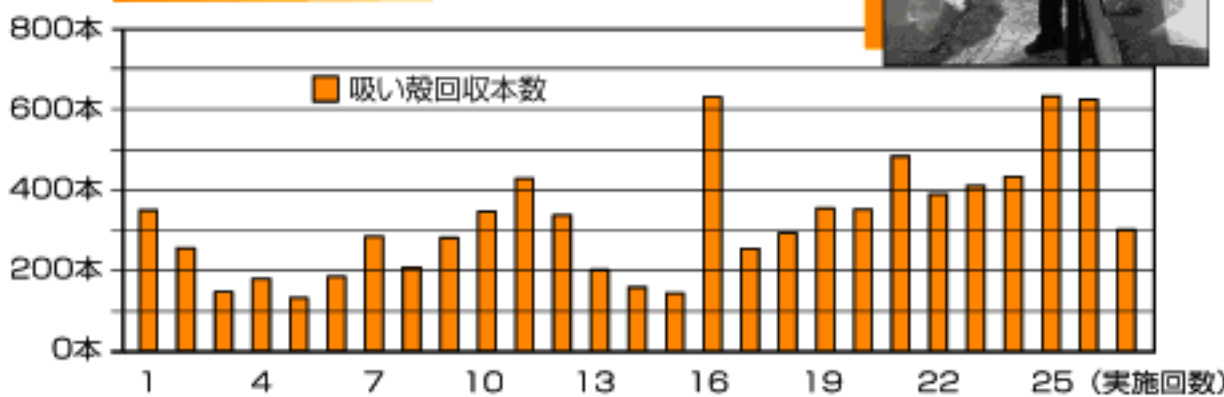
「禁煙パトロール」は、昼休みの12時40分から12時55分の15分間とし、2週間に1回実施しており、これまで延べ186名（平均1回7名）の方のご協力をいただき感謝しています。開始から平成18年1月末までの27回のパトロールで吸い殻は

8,675本（20本入りのタバコで434箱）、毎回のパトロールで平均321本（同じく16箱分）を回収しています。

敷地内禁煙になった当初は、パトロール中に喫煙者を見かけ、禁煙のご協力をお願いすることもありました。ちょっと勇気がいりますがそんな時は、印籠ではありませんが禁煙たすきとゴミ拾い用のはさみが後押ししてくれました。最近は喫煙者を見かけることはなくなりましたが、吸い殻は一向に減りません。病院周囲を注意深く観察しながらパトロールすることで、ちょっとした気づきや季節を感じることで、ちょっとした気づきや季節を感じることができ気分転換にもなります。是非参加をお待ちしています。



◆吸い殻回収本数



こども病院の節分

- 2月3日は節分の日。こども病院の病棟では、看護師さんによって節分の飾りつけがされました。写真は4階外科病棟の様子です。
- お面や、色画用紙によるかわいらしい手作りの小おにさん・お豆さんが、廊下に飾られて、雰囲気盛り上げてくれました。



ひな祭り



Valentine's Day

バレンタインデーには、ハートのオヤツをどうぞ!



栄養指導課

ほく!
「げんきカエルさん」だよ。



お知らせ

自立支援医療について

- ◆平成18年4月1日より自立支援医療がスタートします。
育成医療・更生医療・精神通院医療費公費負担制度（略称 精神32条）の3つの制度が自立支援医療費制度に変わります。
- ◆育成医療・精神32条（てんかん等の治療を受けられている方）を利用されていた方

は、負担金額が変更されます。保健所（区役所）からの通知をご確認ください。
また、以前に育成医療の説明を受け、4月以降に申請を考えられていた方は、制度が変更しています。再度、制度についてご確認の上、申請についてご検討ください。
これらの制度に関するご質問・ご相談は指導相談部までお尋ねください。



基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1.子どもの権利を重視した医療の実践。
- 2.安心と信頼の医療の遂行。
- 3.専門的な高度医療の推進。
- 4.地域の医療・保健・福祉機関との連携。
- 5.親と子の健康啓発活動への貢献。
- 6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成。

患者権利宣言

- 1.あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
 - 2.あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
 - 3.あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
 - 4.あなたとご家族のプライバシーは守られます。
- ◆みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。
- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
 - 病院のきまりや約束ごとをお守りください。

「げんきカエル」で取り上げてほしいテーマがありましたら、食堂前廊下の掲示板にあるテーマ応募箱へぜひお寄せください。

編集後記

●春の訪れとともに新しい仲間を迎え病院の中も活気づき、病院の玄関前のパンジーも色鮮やかになってまいりました。さて今回もリスクマネジメント部会の活動や、医療と教育の連携、禁煙活動、放射線検査などなど盛りだくさんの内容となりました。快く原稿を寄せていただきました方々にお礼申し上げます。これからも皆様のお役に立つ情報、こども病院の取り組みなど様々な情報をお届けしたいと思っています。「げんきカエル」に関するご意見をお待ちしています。

●今季号の担当は春名でした。来季号もどうぞお楽しみに！

編集委員長：大橋正伸（診療部）、編集渉外担当：行 祥子（指導相談・地域医療連携部）

編集担当：迅 真貴子（看護部）、春名真巳子（看護部）、正井秀幸（検査・放射線部）、村田和歌子（薬剤部）

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

E-MAIL:info_kch@hp.pref.hyogo.jp